

したるを以て、「エーカー」一萬四千三百本を栽植し、バムバンガーは一萬七千八百本を栽植すと云ふ。

今蔗園三百「カベン」(我百六十八町)に就て言はんは、其開拓に四年を要し、其一半即ち百五十「カベン」に植付をなし、他の一半は休作するを常とす。「エーカー」に對する製糖の量は、前既に述るが如く、凡そ二七五噸(姑らく尼虞路斯島を準とし)にして、「カベン」に付三、八五噸の率をなし、製糖合計五百七十七噸半を得べし。即一噸の製造費二十六弗八十四仙、一担(我百斤)に付一弗六十七錢七厘五毛、其市價一担に付三弗二十五仙と假定すれば、固定資本に對して二割二分の利益を生ずべし。尙ほ蔗田一半を休田となすは、必しも必要ならず。

今千八百八十八年の相場に依り、伊呂伊呂糖上等を標準となし、糖業の損益を勘定する大約左の如し。

固定資本

金五萬千六百五十弗

内 譯

金二萬九千四百弗

開墾地買入代(一カベン九十)

金六千弗

搾車蒸發釜等

金千五百弗

機械並に倉庫

金千五百弗

支配人住家

金五千弗

水牛百五十頭並に其圍柵

金千四百弗

道路溝堤等

金三百五十弗

車二輛馬六頭

金五百弗

貸付金棄損

金八百弗

小屋四十棟

金二千五百弗

荷車四十輛牛二十頭

金千五百弗

農具及貯藏品

金四百三十五弗

大工鍛冶道具類

金五百弗	同上仕事場
金二百五十弗	諸器械等買入地より蔗田迄運搬費
運轉資金	
金一萬五千五百弗	
内譯	
金二百八十八弗	監視人俸給四人分
金千九百二十弗	勞力者賃金四十人分
金三百六十弗	機械家一人俸給
金四十五弗	同助手俸給三ヶ月分
金千八百弗	製糖人賃金(百人三ヶ月分)
金二千弗	同上食料
金九百弗	糖袋二萬個代
金百三十五弗	薪

金六百三十二弗	油石灰其他製糖用品代
金千百五十五弗	伊呂伊呂港迄運搬費一担に付十二錢五厘として九千二百四十担に係る
金七十弗	機械免許料
金二十弗	牛馬及車同上
金千五十弗	道路溝渠堤塘柵圍機械牛馬車等維持改修費
金二千三百二十弗	蔗田一般の改良及農具新調代等
金百五十弗	旅費及運搬費
金千五百弗	支配人俸給

右利益計算は、バムバンガ州某地の調査に由るも、大差なしとす。即ち一割五分乃至二割の間あり。甘蔗の業は千八百八十四年以前に在ては、實に有益の業なりし、然れども現今に於ては其他人の資本を以て開墾する者は、其の得る所單に資金の利息を得るに過ぎず、其原因は歐洲にて、菜糖の製造盛に行はれ、砂糖の分量非常に増加せしに由る、左の表之を證す。

各	千八百八十年	千八百八十七年	増	減
國 甘蔗糖	三、二八五、七一四	二、三三三、〇〇四		九五二、七一〇
産 甘蔗糖	一、四四三、三四九	二、四九二、六一〇	一、〇四九、二六一	
額 計	四、七二九、〇六三	四、八二五、六一四	九六、五五一	

比律賓島輸出額

千八百八十年	千八百八十七年	千八百八十九年
三、三六二、五七二	二、八六六、三八三	二、六六二、七一四

價額低落

此の如く蔗糖の産額漸次減却すると同時に、價額も亦太だ低落せり、其一担の相場左の如し。(八十九年は特に増加したるも)

千八百七十七年	四、三七 ¹ / ₂ 乃至六、七五
同 八十七年	二、八七 乃至四、二五
同 九十一年	一、八七 ¹ / ₂ 乃至三、七五

蝗害

本島に於て蔗、米、玉蜀黍の耕作に、最も多害なるものを蝗とす、其の突如として来るや、一群幾百萬なるを知らず、一たび田圃に聚集すれば數里の綠圃は一夜にして枯す。然れ

白糖と褐糖

ども其の性最も音響に驚き、大砲を放つことは殊に驅逐に効あり。日中蝗の至らんとするや、土民は金盤を鳴らし、竹木を叩き、或は濕薪を燒きて、烟を揚ぐ。蝗は穀物に對するの外、毫も害をなす所なし、貧民は之を以て食餌に充つる者あり。製糖に二種あり、一は白糖にして北部諸島に出で、一は褐糖にして南部に出づ。近來歐米の需用減少するに隨て、比律賓は我が購買を望むこと切なり、近來同地より我に輸入する砂糖の價格は左の如し、

明治廿六年	全 廿五年	全 廿四年	全 廿三年	全 廿二年
三、六四七 ^円	一 ^円	一九、七二六 ^円	一、四五三 ^円	八 ^円
三四二、〇〇五	二二七、〇〇〇	五八、〇二五	八八、四三四	二八、四二六
第二 米				

米の産出

土民の常食は米なり、故に各州之を産せざる所なし、其市價は其豊凶に由り、又は時期に由りて、昂低實に甚し、各民十分に會得せるは、唯此耕作のみ。千八百八十七年の收穫は、大凡百四十一萬五千担にして、豊年に在ては六百四十四担(千七百萬カバン)に上るとあり

土民の間には米穀を量るに「カパン」を用ふ。

一「カパン」……二十五「ガクタ」

一「ガクタ」…… 八「チニーバ」

一「チニーバ」…… 四「アバタン」

英量に比するときは

一「カパン」……一六「ガロン」三「クオート」一「バイント」

一「ガクタ」……二「クオート」二「バイント」

一「チニーバ」……一「バイント」一・六七五

一「アバタン」……一「バイント」一・一六八七五

而して「カロン」は四「クオート」、「クオート」は二「バイント」にして、「ガロン」は吾が二升四合四一六に當り、「バイント」は三合〇五三に當る。

輸入の米を量るは、「ピックル」即ち担を以てす。而して一担は一噸の十六分の一なり。

一担……一〇「チナンタ」

一「チナンタ」……一〇「カチー」

一「カチー」……一六「テール」

十六担は一噸に當り、二担は「ベール」に當る。

輸入米

米は元と本島より輸出する所ありしが、七八年來内地の食料に供するに尙ほ且つ足らず、多く暹羅、緬甸、交趾支那より輸入するに至れり。是れ蘇、甘蔗及煙草の耕作の容易にして利得稍多く、土民漸く此を以て彼に易へたるに由れり。麻尼刺政府は、米の輸入に對して海關税を増課し、内地の米作を奨励せんと欲し、明治廿六年以來其税額を倍したるも、其輸入は依然増減せずと云ふ。

第三 馬尼刺蘇

馬尼刺蘇は此地に「アベカ」と稱す、其樹醃た芭蕉に肖たり、其異なる所は色の芭蕉に比し、更に暗緑なると、葉の稍短きとのみ。麻の用は織て布となし、綯て綱となすに在りて、熱帶地方には其用廣し。

此樹は水氣を要すること著し、然れども又澤地に生せず。之れが發育を能くするには、他

樹の陰を與へ、且つ其土壤を深くするに在り。常に山腹殊に火山の側面に繁茂するを見る。本島の蔴は其長十尺許を以て普通とす。

蔴絲は其幹より取る、蓋し先づ幹を切斷し、五六寸の幅を有する帶狀となし、刀を以て其樹肉を去り、後之を乾燥す。耐久の性あり、但彈力に乏し。

蔴布

精撰の蔴布は歐洲婦人の衣服に適す、其價は普通の布に倍す。「シナマイ」と稱する普通の布は、中等以下土民の常服たり。

收穫運し

麻尼刺蔴は此島獨特の産にして、他地に移植す可らざる者の如し。英人嘗て之を印度に移植せしも、遂に十分の成績を見ず、蓋し本島の農業の中、最も勞少く利多きは、蔴の植栽なり。此樹は他の諸植物の如く、收穫に時期なく、四時之を取るとを得べく、其栽植地は周到の開墾を要せず、只一部を開けば足れり。蝗害又は兕虫の害あるなく、風は大抵林樹に依りて保護せられ、洪水は概ね高地なるを以て免る。植ゆるに熟練を要せず、又深耕勸舞の勞を須ひず。尤も其收穫を見るは、栽植後少くも三年にあらざれば能はず。故に薄資の農家に在ては、之を稍々不便となすのみ。然れども是れ種子より播種する栽培法にして、

多くの農家は種子法を用ひす、六ヶ月を経たる萌芽を植ゆ、此方法に由るときは收穫稍早きを得る也。

植栽の法は先づ三十六西班牙尺の地に、一株を置くを要す。然る時は、久からずして、其根蔓延し、萌芽處々に生じ、交互錯雜、其母木を認知する能はざるに至る。幹を切るは、生長して花を發くに至る時に於てす。決して子を結はしむ可らず、是れ纖維を脆弱ならしめ、調整の時損害を生ずることあればなり。

纖維の量

一株より得へき纖維の乾燥せる重量は、十「オンス」内外とす。即ち幹の全量約百分二に當る。然れど切採のとき自ら損耗あるを免れず、最大の注意をなすも、尙一「エーカー」の收穫三、六〇「ハンドレッドウェイト」に過ぎず。一「ハンドレッドウェイト」は、吾が十三貫五百二十三七七六に當る。

アルバイ州に於ては、蔴樹栽植費千本に付三弗、苗木代價百本に付五十仙乃至一弗許。土人を用ひて之を栽植せしむるときは、往々欺かるゝの虞あり、寧ろ三年收穫の期に至り、拂ふべきを約して受負はしむるを利なりとす。斯くするときには百本に付大凡十弗の割合な

り、但し新開地「エーカー」に付凡七百二十株を植栽するを得べきものとす。
 樹條即刀に懸くる樹皮の長は、大凡六尺六寸（「アルバイカ」の産に就て云ふ）、其條より抽出したる纖維の含有する濕氣は、百分五十六に居り、之を乾燥するには、大概五時間を要す。危険を感ずるは此際に在り、大農は齒ある刀を用ふるを力む、齒ある刀を以てするときは、纖維美にして潔く、價隨て高し、土民は之れを以て重量を失ふの損ありとし、其價直の上に利あるを悟らず。

蘇の最良品は、靈廷島、「マリランダ」島、並に呂宋島、アルバイ州なるソルソゴン、ガベットの諸地に在り。アルバイ州の蘇は、年額二萬噸を以て平均とす。

千八百二十五年前は、蘇の産出微々言ふに足らざりしが、同四十年に至り、八百五十弗。同七十年には、三萬五百三十五噸に至り、其後次第に増加せり、其近時の輸出額左の如し、

近時麻輸出總額

年	噸數
一八七二	三九、〇七七
一八七三	三三、六六九
一八七四	三八、五〇二
一八七五	三三、八六四
一八七六	三九、四三二
一八七七	三九、四〇九
一八七八	四一、七四三
一八七九	四〇、四九七
一八九〇	四九、九三四

損益勘定

麻の産出最盛大なるアルバイ州の麻園損益計算左の如し、

年	蘇積込地		輸出港		合計
	年	噸數	噸數	噸數	
一	八	八	四一、五三五	一二、七七一	五四、三〇六
二	八	八	三六、〇九一	八、一一四	四四、二〇五
三	八	八	四〇、一一三	六、五六七	四六、六八〇
四	八	八	四三、二六〇	七、七一六	五〇、九七六
五	八	八	四三、九二七	八、二一四	五二、一四一
六	八	八	三九、二六八	七、一九二	四六、四六〇
七	八	八	五六、七〇九	七、六六三	六四、三七二
八	八	八	七一、三八一	一一、二九八	八二、六七九
九	八	八	五九、四五五	一一、六一六	七一、〇七一

固定資金

金五萬七千五百弗

内譯

金五萬弗

「植栽後二ヶ年經過麻園五百」ピンウチス「買入代一
 「ピンウチス」は我が一町四反餘

金三千弗

倉庫建築費(五千擔を容るゝを目的とす)

金二千五百弗

荷造器並に小屋

金七百弗

倉庫敷地並に麻乾場

金三百弗

馬二頭並に車

金千弗

貸付金棄捐(一人十弗の割合)

運轉資金

金九千七百五十弗

内 譯

金九百六十弗

麻園監視人給料(但一ヶ月二十弗四人分)

金九千九十二弗

支配人書記倉庫拂等給料

金四百六十八弗七十五錢

荷造費並に用品代共(但一袋十八仙七五として二千五百袋に係る分)

金百六十三弗五十仙

地方貯藏中損失

金二百弗

盜難紛失

金百十弗

倉庫荷造場等火災保險

金九十六弗

馬飼料

金二百弗

旅費

金一千弗

租稅

金百五十弗

郵便電信其他事務所費

金千二百五十弗

麻尼刺迄運賃(一担廿五仙の割)

金百五十六弗

積荷麻尼刺迄保險

金百二十五弗

積荷費(但一袋五錢の割)

金五百四十一弗

麻尼刺仲買口錢並に陸揚費

金三十七弗五十仙

同上藏敷料(但一俵三仙半月分)

「ピソウチス」の地より産出すべき麻の量は、一ヶ年凡十担、即「エーカー」三、六〇「ハ
ンドレ、ドゥエイト」にして、前掲「ピソウチス」は、五千担即二千五百俵を出すべし。而し
て此産出額は、之を地主と耕夫の間に平分するを例とす。今其産額の八割を一等品、自餘

の二割を二等三等相半するものと假定すれば、其所得凡そ左の如し、

金二萬七千五百十弗
 製麻二千五百担賣上代(但一等品は八弗五十仙二等品は七弗七十五仙三等品七弗二十五仙の相場として本行の如し)

金三千七百五十弗
 耕夫より買取りたる二千五百担より生ずる利益

金二千五百弗
 荷造類戻入(麻尼刺商人より拂入一俵一弗の割)

即

金二萬七千弗
 賣上所得金總高

金九千七百五十弗
 運轉資金

差引

金一萬七千二百五十弗
 利益

固定資金に對し三割の割合に當る

麻の價格

蘇の價格は、近來低下の傾向ありと雖も、之を五十年前に比すれば、一般に増進したり、近時に於ける一担の最上相場を舉ぐれば左の如し、

千八百四十年
 一弗十九仙

全 八十九年
 十七弗二十一仙半

全 九十一年
 十七弗

千八百八十九年中最高相場と最低相場の差は四弗七十仙餘なり

麻の重要な得意先きは米國也、而して米國が其關稅を高めたるは、此島に及ぼせし影響少からず、本島の爲め顧慮すべき所とす。

又近年に於て、比律賓島より我國に輸入したる麻の金額は左の如し、

明治廿六年	同	廿五年	同	廿四年	同	廿三年	同	廿二年
五二、三六三 _円		二八、七九三 _円		三三、〇三三 _円		三二、七六六 _円		一四、六九三 _円

第四 珈琲

此島に於ける珈琲の培植は、現世紀の初を嚆矢とす、當時栽植の樹、今尙ほ子を結ぶ者あり。全島の最良品は「バタンガス」、「ラグナ」、「佳威貞」諸州より出づ、而して「リバ」は「ベタンガス」珈琲産出の中心たり。最粗品は民打腦より出づ、麻尼刺品とは、價格の上に大差異あり左の如し、

珈琲の培植

輸出額

珈琲價格比較表

年	一八八二	一八八三	一八八四	一八八五	一八八六	一八八七	一八八九
麻尼刺珈琲	一〇、二五 <small>仙</small>	一二、〇〇 <small>仙</small>	一二、六八 <small>仙</small>	一二、〇〇 <small>仙</small>	一二、一七 <small>仙</small>	二六、一四 <small>仙</small>	二一、四七 <small>仙</small>
民打臘珈琲	九、三〇	一〇、〇〇	一二、〇〇	九、八七	九、五六	一九、五〇	二〇、三四

輸出額

本島の全輸出額を擧ぐれば、左の如し、

珈琲輸出額

一千八百五十六年	四百三十七噸
一千八百六十五年	二千三百五十噸
一千八百七十一年	三千三百三十六噸
一千八百八十年	五千五十九噸
一千八百八十一年	五千三百八十三噸
一千八百八十二年	五千五十八噸
一千八百八十三年	七千四百五十一噸

栽培法

一千八百八十四年 七千二百五十二噸
 一千八百八十五年 五千二百九噸
 一千八百八十六年 七千三百三十七噸
 一千八百八十七年 四千九百九十八噸
 一千八百八十八年 六千七百二噸
 一千八百八十九年 五千八百四十一噸

本島の珈琲は尙未だ僅々たるものに過ぎず、若し耕作販賣の方にして、其宜きを得ば、此業を盛にすると亦た難からざるべし。即ち周到の注意を以てするときは、「カパン」の地一〇、四〇担(英の十三「ハンドレッドウェイト」)の製品を得べし、植付の儘にての賣買は、其成長したるもの「カパン」毎に二百五十弗。即ち「エーカー」毎に百八十弗に當る。珈琲樹は栽植後四年に至り、商品となるべき子實を生ず。其最も善く繁茂するは、邱陵高燥の地にして、其根能く乾き、温度平均七十度を超へざる所に在り。「カラコリロ」と稱する種類は、東方に面せる高地斜面の處に多し、朝陽早く夜分の露を干すを以て適する也。

佳威貞州に於ては殆んど此作に力を用ひず、然れども其品質極めて好く、全島の最良品たる「パタンガス」珈琲と混合して賣る者あり、之を識別すると殆ど難し。

「パタンガス」に於ては、「マダラ、カカオ」と稱する樹を以て、珈琲樹を陰するを以て例とす。其方先づ此樹を並植し、各樹間一「ヤード」(西班牙尺)の空源を與へ、其長二三尺に至りたるとき、始めて珈琲の萌芽を各樹の間に植ふ、其後三年乃至四年の間に、此「マダラ、カカオ」及珈琲樹を移植し、更に廣裕の地を與ふ。珈琲樹は時々剪截して、其枝の交錯重疊するを防遏すべし。地味位置に隨ひて差ありと雖ども、大抵八年内外の日月を經過したる後、大凡「カベン」に二千四百株、「エーカー」に千七百二十八株を配植するを常とす。故に一株より得る所の製品は、九、六九「オンス」の割合なり。然るに白露國の珈琲は、一株能く未製品一磅を出す云ふ。

自ら資本を下して、珈琲を培植する者の利益は、全資金に對して、大抵一割八分とす。故に自ら廣地を開きて、植栽を力めんよりは、寧ろ小耕夫より買集むると利なりと云ふ。

珈琲は陰と濕とを要す、截剪度に過ぐるを不可とす、野生の樹は十五尺乃至廿五尺に達す

利益

れども、培栽せる者は七尺至乃十尺を通例とす。此島の珈琲は一年一收なり、然るに西印度に於ては、其熟稔の期一時に到らすして、十二ヶ月中八ヶ月間は、此業に従事することを得「アレイナル」に於ては年々三收ありと云ふ。

第五 烟草

草マニラ煙

比律賓島の位地を知らず、又其名さへも知らざる人士と雖ども、麻尼刺といへる地の、煙草の産地たるを知らざるものは殆ど稀れなり。本島の煙草が世に名ある、以て見るべし。煙草の本島に繁殖せしは、西班牙人占領後、程なく彼れ宣教師の手を経て、墨西哥より移し來りしを濫觴とす。爾後二百年間は、政府も此の耕作販賣を注意すると薄かりしが、千七百八十一年ジョーゼ、パスコ、イ、ヴァーガスといへる人、總督となりし時、その耕作販賣、共に嚴然たる政府の營業となり、千八百八十二年に於ては、之より得る所の利益、實に全島歳費の一半を支ゆるに至りぬ。然れど政府の特權を有せしは、呂宋島に止り、其他の島に於ては、自由の耕作を得たり、又呂宋島中に於ても、特權地はカガヤンラ、ユニオン、アプライロコス、シヨール、イ、ノルテ及ニエヴァエシマアに限られ、政府は非

政府の専賣

常の干渉を以てし、呂宋北方の民は、煙草の外耕作するを禁し、其好む所の時に、耕作するの自由を得ざりき。政府の命に従へば、各戸毎年四千株を培養すべく、背けは制するに罰金を以てす。而して耕夫は一葉だも、留めて自ら薫するとを得ず。此島に於ては土地の有主を證する券面の類あるなし、故に若し耕作に着手せざる地を有する者あれば、政府直ちに收めて之を他人に附す、要するに政府の煙草耕地に在る土民は、一切奴隸の状態なり。ニエツア、エシヤ、の煙草耕夫が、其友に與へたる書に、自家境遇の慘を訴たるものあり、其要に曰、「耕者は自己の流汗を以て作りたる葉を、乾燥舎の内に薫することを得るのみ、若し一步舎を出て紙巻煙草を口にせんには、忽ち半弗の罰金を科せらる、若し又葉巻煙草ならんには、罰金は高く二弗となる。半弗、二弗尙は可なり、之れに重ぬるに過大の裁判入費を以てせらる、彼是計算すれば吾手を以て作り出せる葉巻煙草一本を薫し、七弗三十七仙半の罰金を徴さる、紙巻煙草の微を以てしても、尙ほ且一弗八十七仙半を其一本に費す。若夫監察の嚴密なる、吏員は日出より日没に至る迄、間斷なく來りて耕夫の家裡を搜索し、以て其半葉の隱匿を摘發せんと勉む、行李、家具、壁隅、障

陰、寸分の微も點檢を免るゝ所なし。主人より病妻少女に至り、一自身體檢査を行ふ。父兄若くは其夫、近親の侮辱を見るに忍びず、猛烈激發、刀を執て暴吏に向ふの已むなきを見る場合は數次なり。斯くの如くして收穫さるゝ煙草は如何、官吏は精細に之を檢査し、其試験に合格せる葉に對しても、耕夫は政府が恣に定めたる報を受くるに過ぎず、若し合格せざるものに至ては、千葉萬葉を積むも、遂に半文錢を受る能はず。且つ此業は耕夫に返還さるゝなく、官吏束ねて之を一炬に付す云々。酷薄も此に至て極まると云ふべし。去れば千八百〇七年千八百十四年の如き、反亂起り、暴官汚吏の骸は、積むて山をなすを見るも、此弊政は遂に止む能はざるなり。煙草の合格して政府に買収さるゝものも出納吏は拂ふに一の手形を以てす、而して其支拂の信用薄きや、之を奇貨とし、耕夫の家計窮するに乗じ、非常の低價を以て、此手形を買収するを常とせり。千八百八十二年十二月三十一日に至り、政府は遂に煙草業政府專營の事を罷めたり。惡制一たび廢せらるゝや、麻尼刺及其他の地方に於て、製煙の業を企つるものは俄かに多きを加へたり、今麻尼刺に於て著名のものゝみを擧ぐるも、大凡十二ヶ所に及び、工人の

數一萬一千餘人の多きに及ぶ。其他土人又支那人の設立に係る小工場は、得て數ふ可らず。斯くて專賣の制廢れ、煙草耕作製造の業は擴張せりと雖も、品質は却て従前より下り、價格又上り、商況太だ快活ならず。左に擧ぐるは近年の輸出表なり。

煙草輸出表

	卷 煙 草	煙 草 葉
千八百八十年	八二、七八三千本	八、六五七噸
千八百八十一年	八九、五〇二千本	七、〇二七噸
千八百八十二年	一〇三、五九七千本	六、一九五噸
千八百八十三年	一九〇、〇七九千本	七、二六七噸
千八百八十四年	一二五、〇九一千本	七、一八一噸
千八百八十五年	一一四、八二一千本	六、七九九噸
千八百八十六年	一〇二、七一七千本	六、〇三九噸
千八百八十七年	九九、五六二千本	四、八四一噸

輸出額

千八百八十八年	一〇九、一〇九千本	一〇、二二九噸
千八百八十九年	一二一、六七四千本	一〇、一六一噸

此の千八百八十九年に於ける輸出金額は、三百十五萬五千八百二十五弗なりと云へり。而して吾國に輸入する近年の金額を擧ぐれば

明治廿六年	廿五年	廿四年	廿三年	廿二年
五九、八九七 _円	五二、六一〇 _円	四九、六一三 _円	四九、四三二 _円	四五、三八二 _円

なりとす。

他の産出額

以上五品の外に左の諸産あり。
 玉蜀黍 南方の地に於ては、米に代ふるに此穀を以てする所多し、然れども是れ主として自用に供するものにして、輸出品にあらず。

椰子 頗ふる難作物にして、些少の風にても容易に脱落し、又た病に罹ると多し。故に全く補助作物に屬し、此耕作のみに其全力を用ふる者なし。

竹、蓖麻油、馬鈴薯、甘藷、夫の「チュニレート」を作るに用ふる「カカオ」、其他屋を覆ひ、又一種の酒を醸す所の「ニッパ」、護謨、肉桂、食料に用ふる燕巢、諸種の美材、并に驢馬

石炭は産出額少し

等枚舉に違わらず。

第六 礦物

一、石炭 是本島に礦脈なきに非ず、然れども發掘を経たる者は僅々にして、現今歲額二萬五千噸内外に過ぎず。蓋し政府は絶へて此業を奨勵するなく、人民の懶怠貧困なる固より自ら之を興すと難し、加ふるに氣候は炎熱にして暖室の必要なく、薪木は豊富にして容易に之を採るべきを以て、石炭を用ふる所は、些々たる鍛工鑄師と、僅々たる工場に過ぎず、これさへ地方の製糖工場如き、後來百年間は、尙ほ薪木を用ひて、石炭を要せざるべし。斯くの如くして石炭業は注意せられず、されど近來麻尼刺に向ひ、漳州、英國及び我帝國の石炭を輸入するあり、彼れをして大に警醒する所あらしめたるが如し、目下吾國より輸入する者左の如し、

明治廿六年	全	廿五年	全	廿四年	全	廿三年	全	廿二年
七八、三二〇	明	六七、四一四	明	九一、二二七	明	一八二、六五六	明	一四、三八〇

勢武島には礦脈の大なる者あり、其の中「コムボスチラ」礦を尤とす、アルペコ山の産は純粹乾燥にして、火炎盛に、全く硫鐵の混和することなし。勢武の産は、概するに漳州産等に

金礦脈

比すれば、良品なれども、火力稍劣り、遠航に宜しからず。

二、金 西人の此島を占領せし時、先づ意を金鑛搜索に用ひたるは、時勢上何人も想像し得る所なり。千五百七十二年、早く己に我、砂流露度大尉の、カマリチス、ノルテ州なるバラカレ鑛山を査檢せしと史に徴すべし。蓋し比律賓群島は、各大島多少金脈なきはなし、然れど何れも散在し、大鑛脈の一處に存するものはなし、從來苦心の探檢未だ好鑛を發見せず。

バンゴトコタン(ベングエットの近傍)、マムベラオ、シユリガオ(民打腦の東北角)、其他處々金坑ありと雖ども、未だ盛大なるものを見ず。蓋し此島に鑛事を起すの不便は、土民の歐洲資金家の用をなすを好まざるに由る、或は支那人を用ふるの策を建てし人ありしも、其渡航費少からざるを以て此れ亦遂に行はれず。而して道路の不便甚しきに至りては、起業家の心を沮遏すると亦た實に大なり。

三、鐵 鐵も亦大なる收利を見ず、麻尼刺城外數哩の處に、鐵坑あり、十八世紀の半の比に至り、政府より公賣に付し、フランシスコ、サルカドといへる西人、之を競買したりし

鐵礦

も、利を見ず。既にしてサルガド、モロンク地方の、ボンボンといへる所に、鐵脈を發見し、支那人を雇入れて之に従事し、稍々其益を見るに至りしが、總督は支那人の基督信者に非ざる故を以て許さず、坑夫は本國へ放還せしめ、政廳に納めたる鐵は、邪宗信者の手に成れりとして、其價を拂はれず、憐むべしサルガドは爲めに家を破つて零落せるに終りぬ。パラカン州なる、アンガット坑は、良鐵を出し、其純鐵百分八十五を含む。未だ盛大ならずと雖ども、蓋し有望なり。

四、銅、硫酸石灰、硫黃、産出あるも皆著大ならず、要刻下の望を屬すべきは、農業商業に在りて、鑛業に在らず。然れども未檢の地尙ほ極めて多し、精細の科學的探檢を経たるの後に非れば、未だ遽かに造化の秘寶此島に存せざるを速斷す可らざるなり。

比律賓群島

終

292-48
M516h

明治二十九年一月廿八日印刷
明治二十九年一月卅一日發行

定價金十八錢

版權
所有

發行者 垣田純朗

東京市京橋區日吉町四番地

印刷者 高田乙三

東京市京橋區西紺屋町廿六七番地

印刷所 株式會社 英舍

東京市京橋區西紺屋町廿六七番地

發行所 民友社

東京市京橋區日吉町四番地

◎民友社出版書籍目録◎

社會叢書

既刊目錄如左

○第一卷

○第二卷

○第三卷

○第四卷

○第五卷

每月一卷出版
十一冊讀完結

- | | | | | |
|----|----|----|----|---|
| 海簡 | 娛樂 | 事務 | 資本 | 資 |
| の | 易 | 樂 | 本 | 本 |
| 日 | 俱 | 世 | の | の |
| 生 | 樂 | 活 | 活 | 活 |
| 本 | 樂 | 界 | 界 | 界 |
| 人 | 部 | 部 | 部 | 部 |
| 活 | 活 | 活 | 活 | 活 |
| 人 | 人 | 人 | 人 | 人 |
- 印 郵定 郵定 郵定 郵定 郵定
 稅價 稅價 稅價 稅價 稅價
 刷 二十 二十 二十 二十 二十
 中 錢錢錢錢錢錢錢錢

青年叢書

○第一卷

武備教育

全部十卷
每月出版
郵定價稅
十二
錢

○高	○宮	○山	○竹	○平	○通	○臺	○臺
第十二卷	第十一卷	第十卷	第九卷	第八卷	通譯官股野保和編纂	臺灣會話全集	臺灣全集
伊	伊	彌	與	田			
ゲ	ヲ	萩	マ	カ			
作	吉	吉	郎	久			
著	著	著	著	著			
一	ツ	生	ウ	ラ			
	ス	徠	レ	イ			
	ス			ル			
郵定	郵定	郵定	郵定	郵定	印刷中	郵定	郵定
稅價	稅價	稅價	稅價	稅價	稅價	稅價	稅價
五	四	四	四	四	二六	二六	二六
錢錢	錢錢	錢錢	錢錢	錢錢	錢錢	錢錢	錢錢

○竹	○德	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○					
支	大	富	號	號	第	第	第	第	第	第	第	第	第	第	第	第	第	第	第	第	第				
越	大	猪	平	平	平	平	平	平	平	平	平	平	平	平	平	平	平	平	平	平	平				
與	支	支	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民	民				
三	日	日	外	外	卷	卷	卷	卷	卷	卷	卷	卷	卷	卷	卷	卷	卷	卷	卷	卷	卷				
郎	本	本	那	那	責	銀	白	哲	歷	經	現	文	教	責	銀	白	哲	歷	經	現	文	教			
著	著	著	著	著	任	貨	哲	學	史	濟	時	明	育	任	貨	哲	學	史	濟	時	明	育			
					過	之	人	變	攻	と	社	之	之	と	過	之	人	變	攻	と	社	之	之		
					去	過	種	遷	究	道	會	之	之	と	去	過	種	遷	究	道	會	之	之		
					現	去	の	史	史	主	主	之	之	と	現	去	の	史	史	主	主	之	之		
					在	現	前	遷	究	道	主	之	之	と	在	現	前	遷	究	道	主	主	之	之	
					未	前	途	史	法	德	義	治	傳	未	前	途	史	法	德	義	治	傳	傳	傳	
					閣	來	途	史	法	德	義	治	傳	閣	來	途	史	法	德	義	治	傳	傳	傳	
郵定	郵定	郵定	郵定	郵定	郵定	郵定	郵定	郵定	郵定	郵定	郵定	郵定	郵定	郵定	郵定	郵定	郵定	郵定	郵定	郵定	郵定	郵定	郵定	郵定	
稅價	稅價	稅價	稅價	稅價	稅價	稅價	稅價	稅價	稅價	稅價	稅價	稅價	稅價	稅價	稅價	稅價	稅價	稅價	稅價	稅價	稅價	稅價	稅價	稅價	稅價
二十	二十	二十	二十	二十	二十	二十	二十	二十	二十	二十	二十	二十	二十	二十	二十	二十	二十	二十	二十	二十	二十	二十	二十	二十	二十
錢錢	錢錢	錢錢	錢錢	錢錢	錢錢	錢錢	錢錢	錢錢	錢錢	錢錢	錢錢	錢錢	錢錢	錢錢	錢錢	錢錢	錢錢	錢錢	錢錢	錢錢	錢錢	錢錢	錢錢	錢錢	錢錢

○ ○ ○ ○

第 第 第 第

四 三 二 一

國 國 國 國

民 民 民 民

小 小 小 小

說 說 說 說

郵定 郵定 郵定 郵定

稅價 稅價 稅價 稅價

十 十 十 十
四 四 六 四
五 五 五 五

錢錢錢錢錢錢錢

七

○ 德 ○ 德 ○ 德 ○ 德 ○ 德

叢 國 富 叢 國 富 叢 國 富 叢 國 富

書 民 猪 書 民 猪 書 民 猪 書 民 猪

風 第 天 文 靜

郎 一 郎 郎 郎 郎

著 一 著 著 著 著

雲 靜 然 學 思

漫 思 餘 錄

錄 錄 人 片 錄

郵定 郵定 郵定 郵定 郵定

稅價 稅價 稅價 稅價 稅價

十 十 二 十 十
四 五 十 四 五

錢錢 錢錢 錢錢 錢錢 錢錢

○ 德 ○ 德 ○ 德

叢 國 富 叢 國 富 叢 國 富

書 民 猪 書 民 猪 書 民 猪

青 人 進

郎 郎 郎

著 著 著

年 物 步

と 管 乎

教 見 乎

郵定 郵定 郵定

稅價 稅價 稅價

十 十 十
二 二 二
五 五 五

錢錢 錢錢 錢錢

○ 內 ○ 人 ○ 山 ○ 塚 ○ 北

號 十 第 十 第 十 第 十 越 第 十 村

外 文 田 九 文 八 文 七 文 六 文 門

シ ユ 太 新 近 太 エ 太

貢 郎 郎 郎 郎 郎 郎

著 著 著 著 著 著

ヨ 井 門 左 衛 門

ン ゴ 白 石

ン ン ン ン

郵定 郵定 郵定 郵定 郵定 郵定

稅價 稅價 稅價 稅價 稅價 稅價

二 三 十 十 十 十
十 十 十 十 十 十
四 六 四 八 八 八

錢錢 錢錢 錢錢 錢錢 錢錢 錢錢

六

第五國國民家文
 第六國國民家文
 今世名家文
 湖處子宮崎八百吉著

歸一布衣著
 乾坤最暗黑之東
 乾坤一布衣著

懷猪一郎著
 吉田松陰舊京省鈔說
 德富健次郎纂譯

グラツドスト
 雷土
 德富健次郎纂譯

武格
 電
 德富健次郎纂譯

格朗
 空
 竹越與三郎纂譯

英國前總理大臣ロースベリ伯爵著 高木信成纂譯
 ツト

伊太利建國三傑
 平田久著

幕府衰亡論
 福地源一郎著

懷往事談
 福地源一郎著

新日本史上
 竹越與三郎著

○竹	○德	○人	○人	○富	○德	○富	○德	○德	○德
越	新	見	國	見	新	第	一	一	一
與	健	一	太	一	太	太	太	太	太
三	次	郎	郎	郎	郎	郎	郎	郎	郎
郎	郎	著	著	著	著	著	著	著	著
本	史	の	大	問	題	影	中	史	中
定價	定價	定價	定價	定價	定價	定價	定價	定價	定價
稅	稅	稅	稅	稅	稅	稅	稅	稅	稅
三十	四十	四十	二十	二十	二十	二十	二十	三十	六十
錢	錢	錢	錢	錢	錢	錢	錢	錢	錢

○人心の明鏡處世の秘寶
○德富猪一郎編纂 久保田米徳著
○生
○庭
○小
○訓
○印
○刷
○中

○平
○少年傳記叢書第一冊
○塚
○越
○露
○芳
○松
○著
○作
○一
○斑

フランクリンの少壯時代

○亞
○帝
○國
○斑

○定價
○稅
○錢

國民新聞

發行所

東京市三田區
市外郵局
日吉町四番地

國民新聞社

定價 一月 一元二角
三月 三元五角
半年 六元五角
一年 十二元

國民之友

英文國民之友

每土曜 定價一元
日發兌 市外郵稅
每月 市外郵稅
二月廿日 發兌
廿錢國民之友併讀者へは十錢一
夕年前金壹圓市外郵稅一部五厘

發行所

東京市京橋區
日吉町四番地

民友社

家庭雜誌

發行所

東京市京橋區
日吉町四番地

家庭雜誌社

每月一回 定價 五錢
廿五日 郵費 全
發售 稅 廿四冊全
五冊 一圓

民友社發行書籍雜誌賣捌所

東京市神田區 全 表神保町	東京市 全 京橋區尾張町	全 龜屋町	全 神田表神保町	全 京橋區出雲町	全 芝區櫻田本郷町	全 神田表神保町	全 日本橋區新大坂町	全 橫濱市太田町四丁目	全 大坂市備後町	全 本町四丁目	全 備後町	全 心齋橋通り	全 京都市新町	全 佛光寺通り			
上田屋	東京堂	東隆館	北隆館	好明館	警醒社	文友館	田上書社	敬業社	鶴屋喜右衛門	國民新聞社支局	吉岡書店	岡島新開舖	中島新開舖	便利堂	東枝律書房		
全 京都中寺町通り	全 河原町	全 神戸市榮町	全 名古屋市本町	全 福岡市博多	全 熊本市新町	全 南坪井町	全 古川町	全 熊本縣八代郡八代町	全 菊地郡隈府町	全 長崎市酒屋町	全 仙臺市大町	全 岡分町	全 盛岡市中橋通	全 吳服町	全 鹿島市革屋町		
飯田信文堂	大井新助	船井新助	川瀬代助	積善館支店	森岡書店	長崎次郎	好文堂	網干屋	岩本理平	時島常平	中島常平	安中半三郎	木文書店	佐助書店	東益堂	便益堂	積善館支店

213E36

廣島市草屋町
 越後水原町
 全 長岡表四の町
 全 高田町
 全 直江津町
 全 新潟市西堀通り
 全 村松町
 全 新發田町
 全 小千谷
 全 福島縣福島町
 全 白川町
 全 青森縣青森町
 全 弘前市親方町
 全 土手町
 北海道札幌南一條西三丁目
 全 室蘭港札幌通り
 全 札幌南一條西三丁目

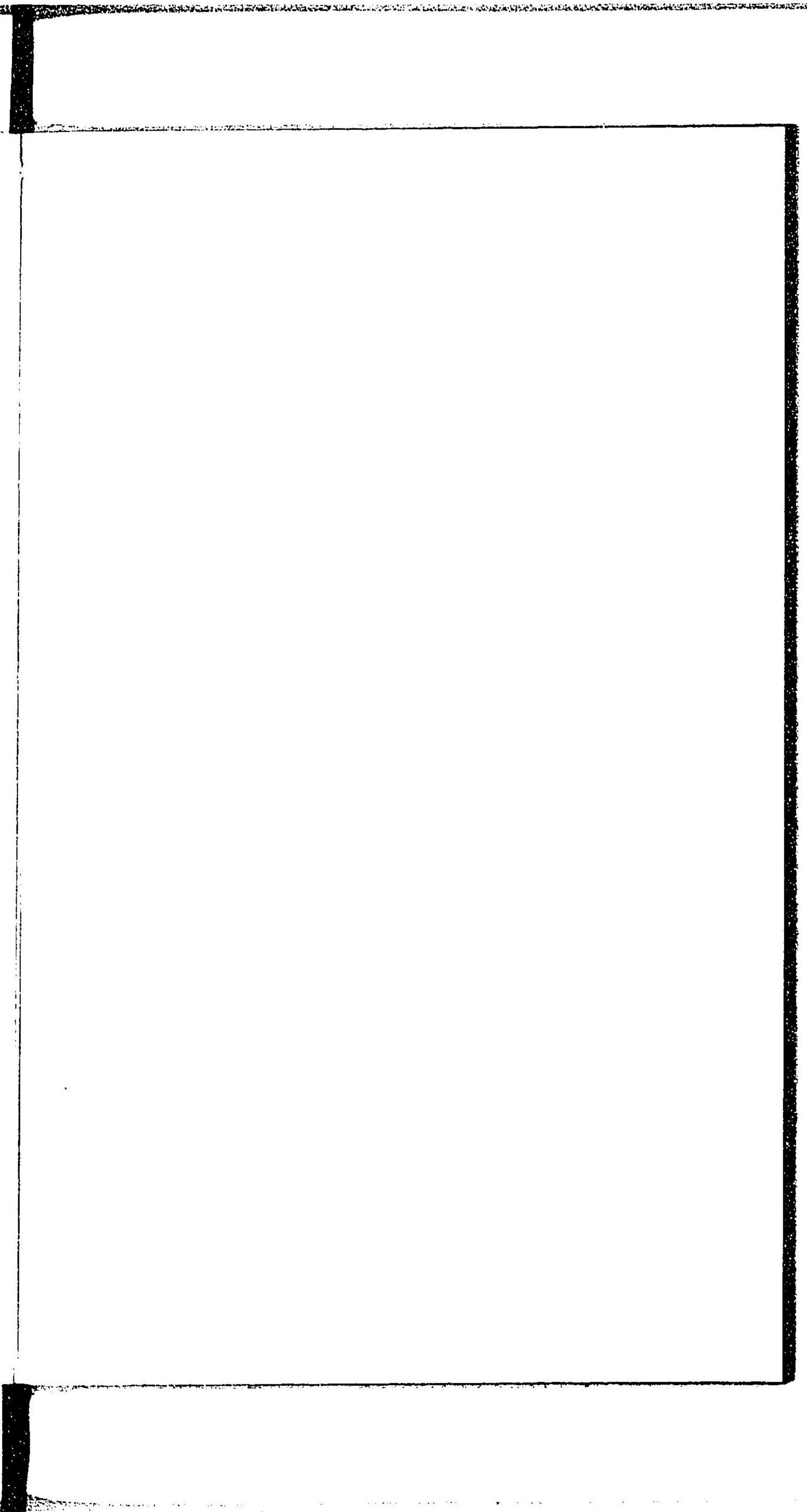
發兌元

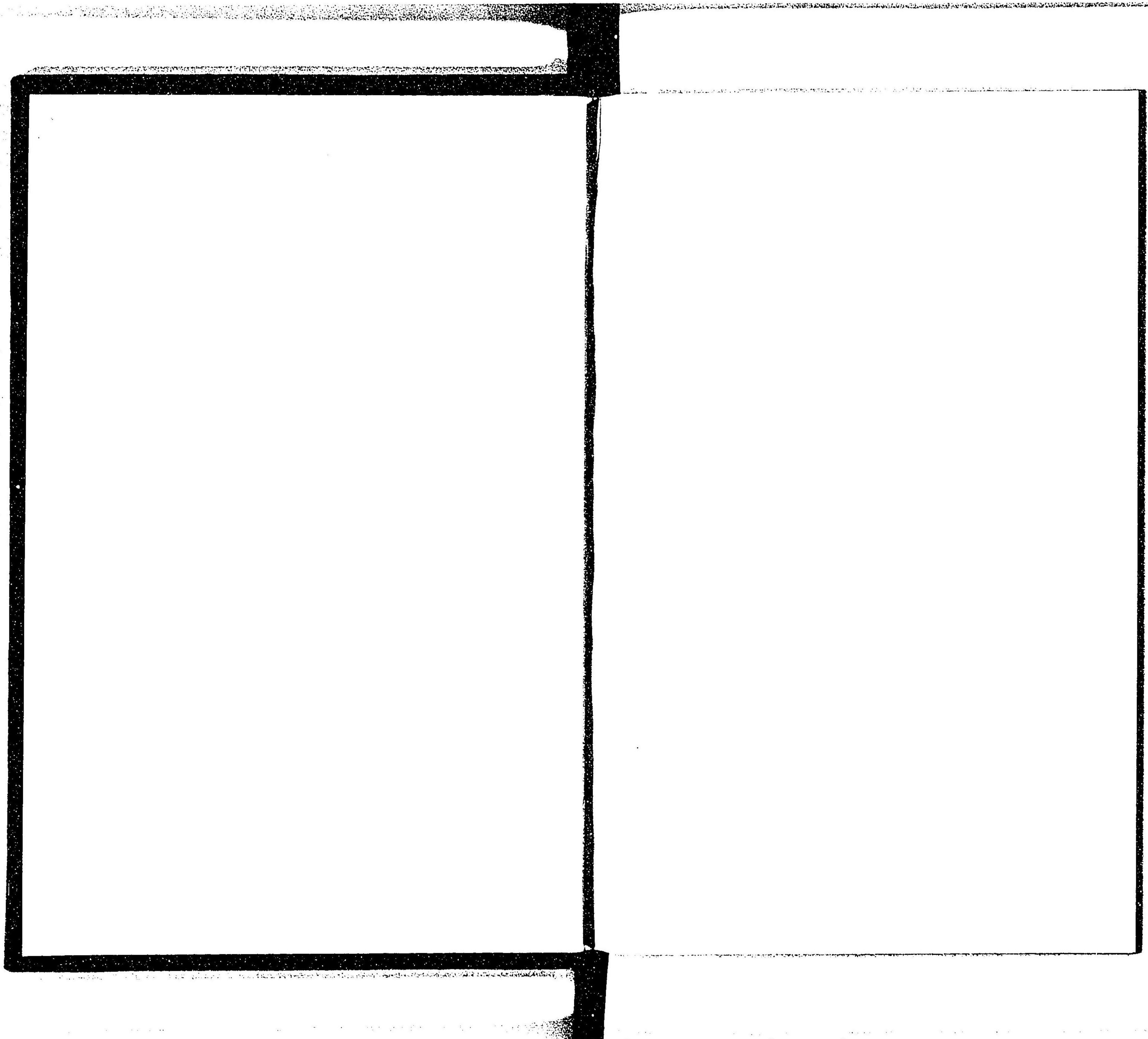
松村書店
 西村十六書
 目黒橋支店
 高橋支店
 室直支店
 高橋支店
 原貞治
 梅屋佐
 津野仁太
 野口俊
 博向
 漸進書
 奧田商書
 鎌田商書
 近松書
 今泉書
 振進書
 最上治
 玉振堂

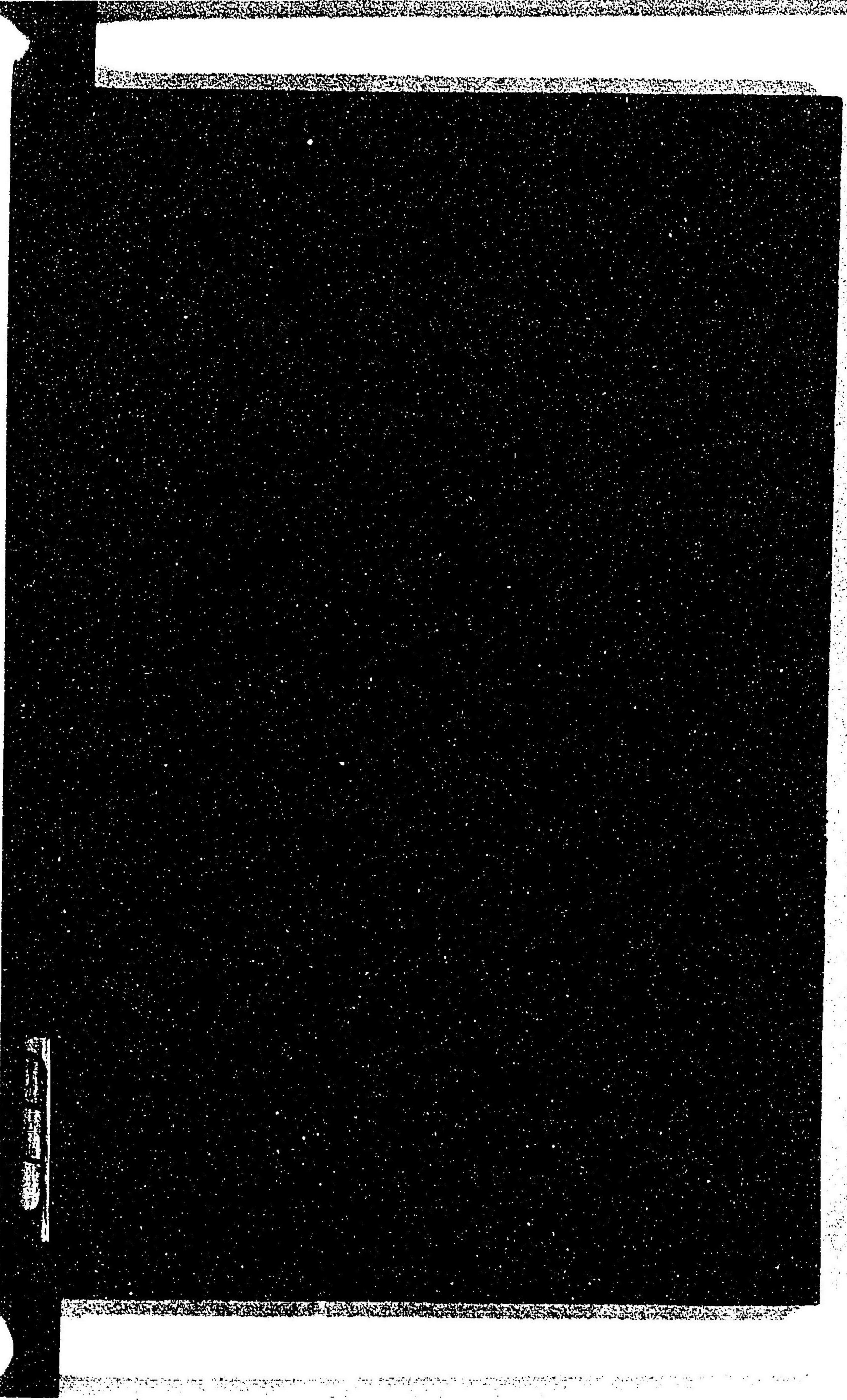
東京市四番地
 日吉町
 民友社

西澤喜太郎
 水盛文館
 文盛文館
 小田幸兵衛
 吉田幸兵衛
 金山光兵衛
 谷村新書
 坂本新書
 文友新書
 新友新書
 中田平書
 煥平書
 柳正書
 正榮書
 川岡榮書
 成見清兵衛
 齋藤清兵衛
 鈴木清兵衛
 山岡清兵衛

十四







292.48
M516h

026793-000-6

292.48-M516h

比律濱群島

民友社／編

M29

ADD-0494



